

国 語

1 原典教科書と分冊の方針

(1) 原典教科書

発行者：光村図書出版株式会社

書名：

「こくご一上 かざぐるま」「こくご一下 ともだち」「こくご二上 たんぼぼ」「こくご二下 赤とんぼ」
 「国語三上 わかば」「国語三下 あおぞら」「国語四上 かがやき」「国語四下 はばたき」
 「国語五 銀河」「国語六 創造」

(2) 分冊と原典教科書との対応

学年	分冊	原典教科書の対応箇所等
第1学年	点字導入編 点字を学ぼう	※点字教科書のために追加した教材 (「3 編集の具体的内容」「4 参考資料 資料1」参照)
	1-1	「こくご一上 かざぐるま」
	1-2	「こくご一下 ともだち」
第2学年	2-1 上 P1~66 P146~149	<ul style="list-style-type: none"> ・こくごの学びを見わたそう・じゅんぱんにならぼう・絵を見てかこう ・つづけてみよう・ふきのとう・図書館たんけん・きせつのことば 春 ・日記を書こう・ともだちはどこかな・声の出し方に気をつけよう ・たんぼぼのちえ・じゅんじょ・かんさつ名人になろう ・いなばの白うさぎ(聞いてたのしもう)・同じぶぶんをもつかん字 ・いなばの白うさぎ(P146~149)
	2-2 上 P67~146	<ul style="list-style-type: none"> ・スイミー・かん字のひろば①・メモをとるとき ・こんなもの、見つけたよ・丸、点、かぎ ・あったらいいな、こんなもの・きせつのことば 夏 ・お気に入りの本をしょうかいしよう ・ミリーのすてきなぼうし・雨のうた・ことばでみちあんない ・みの回りのものを読もう・書いたら、見直そう・かん字のひろば② ・どうぶつ園のじゅうい・ことばあそびをしよう・なかまのことばとかん字 ・かん字のひろば③・かたかなのひろば ・ふろく がくしゅうを広げよう(「たいせつ」のまとめ・本のせかいを広げよう・がくしゅうに用いることば・ことばのたからばこ・図をつかって考えよう)
	2-3 下 P1~86 P150~155	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の学びを見わたそう・お手紙・主語と述語に気をつけよう ・かん字の読み方・きせつのことば 秋・そうだんにのってください ・紙コップ花火の作り方・おもちゃの作り方をせつめいしよう ・にたいみのことば、はんたいのいみのことば ・せかいーのはなし(聞いて楽しもう)・かん字のひろば④ ・みきのたからもの・お話のさくしゃになろう・きせつのことば 冬 ・ねこのこ／おとのはなびら／はんたいことば・かたかなで書くことば ・ことばを楽しもう・せかいーのはなし(P150~155)
	2-4 下 P87~168	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボット・ようすをあらわすことば・見たこと、かんじたこと ・カンジーはかせの大はつめい・すてきなところをつたえよう ・スーホの白い馬・かんじのひろば⑤・楽しかったよ、二年生 ・二年生をふりかえって ・ふろく がくしゅうを広げよう(「たいせつ」のまとめ・おちば・本のせかいを広げよう・つたえ合うためのことば・がくしゅうに用いることば・ことばのたからばこ・図をつかって考えよう)
第3学年	3-1 上 P1~70	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の学びを見わたそう・よく聞いて、じこしょうかい・どきん ・わたしのさいこうの一日・つづけてみよう ・春風をたどって・図書館たんていだん・国語辞典を使おう

		<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の広場①・きせつの言葉 春 ・もっと知りたい、友だちのこと・きちんとつたえるために ・漢字の音と訓・漢字の広場② ・(れんしゅう)文様・こまを楽しむ・全体と中心 ・気持ちをこめて、「来てください」・漢字の広場③
	3-2 上 P71~164	<ul style="list-style-type: none"> ・まいごのかぎ・俳句を楽しもう ・こそあど言葉を使いこなそう・引用するとき ・仕事のくふう、見つけたよ・符号など ・きせつのことば 夏 ・本で知ったことをクイズにしよう・鳥になったきょうりゅうの話 ・わたしと小鳥とすずと・夕日がせなかをおしてくる ・こんな係がクラスにほしい・ポスターを読もう ・書くことを考えるときは・漢字の組み立て・ローマ字 ・ふろく 学習を広げよう(「たいせつ」のまとめ・本の世界を広げよう・手紙を送ろう・インタビュー・学習に用いる言葉・言葉のたから箱・図を使って考えよう)
	3-3 下 P1~64	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の学びを見わたそう ・ちいちゃんのかげおくり・修飾語を使って書こう・きせつの言葉 秋 ・おすすめの一さつを決めよう ・すがたをかえる大豆・食べ物のひみつを教えます ・ことわざ・故事成語・漢字の意味・短歌を楽しもう・漢字の広場④
	3-4 下 P65~168	<ul style="list-style-type: none"> ・三年とうげ ・わたしの町のよいところ・きせつの言葉 冬 ・詩のくふうを楽しもう・四まいの絵を使って ・カンジーはかせの音訓かるた・漢字の広場⑤ ・ありの行列・つたわる言葉で表そう ・たから島のぼうけん・お気に入りの場所、教えます ・モチモチの木・漢字の広場⑥・三年生をふりかえって ・ふろく 学習を広げよう(「たいせつ」のまとめ・メロディ・本の世界を広げよう・げんこう用紙の使い方・知ると楽しい「故事成語」・つたえ合うための言葉・学習に用いる言葉・言葉のたから箱・図を使って考えよう)
第4学年	4-1 上 P1~70	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の学びを見わたそう・力を合わせてばらばらに・春のうた ・なりきって書こう・つづけてみよう ・白いぼうし・図書館の達人になろう・漢字辞典を使おう ・きせつの言葉 春 ・聞き取りメモのくふう・話し方や聞き方からつたわること ・カンジーはかせの都道府県の旅1・漢字の広場① ・(練習)思いやりのデザイン・アップとルーズで伝える・(じょうほう)考えと例 ・お礼の気持ちを伝えよう・漢字の広場②
	4-2 上 P71~160	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの花・つなぎ言葉のはたらきを知ろう ・短歌・俳句に親しもう(一)・要約するとき ・新聞を作ろう・アンケート調査のしかた ・カンジーはかせの都道府県の旅2・きせつの言葉 夏 ・本のポップや帯を作ろう・神様の階段 ・忘れもの／ぼくは川・あなたなら、どう言う・パンフレットを読もう ・どう直したらいいかな・いろいろな意味をもつ言葉 ・ローマ字を使いこなそう・漢字の広場③ ・付録 学習を広げよう(「たいせつ」のまとめ・あせの役わり・本の世界を広げよう・学習に用いる言葉・言葉のたから箱・

		図を使って考えよう)
	4-3 下 P1~83	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の学びを見わたそう ・ごんぎつね・言葉を分類しよう・漢字を正しく使おう・季節の言葉 秋 ・クラスみんなで決めるには ・未来につなぐ工芸品・工芸品のみりよくを伝えよう・慣用句 ・短歌・俳句に親しもう(二)・漢字の広場④ ・友情のかべ新聞
	4-4 下 P84~176	<ul style="list-style-type: none"> ・もしものときにそなえよう・季節の言葉 冬 ・自分だけの詩集を作ろう・言葉から連想を広げて・熟語の意味 ・漢字の広場⑤ ・風船でうちゅうへ ・つながりに気をつけよう ・心が動いたことを言葉に ・調べて話そう、生活調査隊 ・スワンレイクのほとりで・漢字の広場⑥・四年生をふりかえって ・付録 学習を広げよう(「たいせつ」のまとめ・手ぶくろを買いに・本の世界を広げよう・伝え合うための言葉・学習に用いる言葉・言葉のたから箱・図を使って考えよう)
第5学年	5-1 P1~70	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の学びを見わたそう・ひみつの言葉を引き出そう ・かんがえるのって おもしろい・名前を使って自己しようかい ・続けてみよう ・銀色の裏地・図書館を使いこなそう・漢字の成り立ち・季節の言葉 春 ・きいて、きいて、きいてみよう ・(練習)見立てる・言葉の意味が分かること・(情報)原因と結果・敬語 ・日常を十七音で・漢字の広場①
	5-2 P71~135	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界(一)・目的に応じて引用するとき ・みんなが使いやすいデザイン・同じ読み方の漢字・季節の言葉 夏 ・作家で広げるわたしたちの読書・モモ ・かぼちゃのつるが／われは草なり・どちらを選びますか ・新聞を読もう・文章に説得力をもたせるには・漢字の広場② ・たずねびと・漢字の広場③・方言と共通語・季節の言葉 秋
	5-3 P136~198	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい学校生活のために・意見が対立したときには ・浦島太郎「御伽草子」より・和語・漢語・外来語 ・固有種が教えてくれること・自然環境を守るために・統計資料の読み方 ・カンジエ博士の暗号解読・古典の世界(二)・漢字の広場④ ・やなせたかしーアンパンマンの勇氣 ・あなたは、どう考える・季節の言葉 冬 ・好きな詩のよさを伝えよう・言葉でスケッチ・熟語の読み方 ・漢字の広場⑤
	5-4 P199~294	<ul style="list-style-type: none"> ・想像力のスイッチを入れよう・複合語・言葉を使い分けよう ・もう一つの物語 ・「子ども未来科」で何をする ・大造じいさんとガン・漢字の広場⑥・五年生をふり返って ・付録 学習を広げよう(「たいせつ」のまとめ・点字と手話・チェロの木 ・本の世界を広げよう・伝え合うための言葉・学習に用いる言葉・言葉のたから箱・図を使って考えよう)
第6学年	6-1 P1~75	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の学びを見わたそう・つないで、つないで、一つのお話・準備 ・伝わるかな、好きな食べ物・続けてみよう ・帰り道・公共図書館を活用しよう・漢字の形と音・意味・季節の言葉 春

		<ul style="list-style-type: none"> ・聞いて、考えを深めよう・漢字の広場① ・（練習）笑うから楽しい・時計の時間と心の時間 ・（情報）主張と事例・文の組み立て ・たのしみは・天地の文・情報と情報をつなげて伝えるとき
6-2 P76~139		<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル機器と私たち・季節の言葉 夏 ・私と本・星空を届けたい ・せんねん まんねん／名づけられた葉・いちばん大事なものは ・インターネットでニュースを読もう・文章を推敲しよう・漢字の広場② ・やまなし・（資料）イーハトーヴの夢・漢字の広場③・熟語の成り立ち ・季節の言葉 秋
6-3 P140~204		<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで楽しく過ごすために・伝えにくいことを伝える ・話し言葉と書き言葉・古典芸能の世界・狂言「柿山伏」を楽しもう ・『鳥獣戯画』を読む・発見、日本文化のみりよく ・カンジエ博士の漢字学習の秘伝・漢字の広場④ ・ぼくのブック・ウーマン ・おすすめパンフレットを作ろう・季節の言葉 冬 ・詩を朗読してしょうかいしよう・知ってほしい、この名言 ・日本の文字文化・仮名づかい・漢字の広場⑤
6-4 P205~312		<ul style="list-style-type: none"> ・考えるとは・考えることとなやむこと・考えることを考え続ける ・考える人の行動が世界を変える・使える言葉にするために・日本語の特徴 ・大切にしたい言葉 ・今、私は、ぼくは ・海の命・漢字の広場⑥・卒業するみなさんへ・中学校へつなげよう ・生きる・人間は他の生物と何がちがうのか ・付録 学習を広げよう（「たいせつ」のまとめ・物語の世界を作る表現・詩から表現の工夫を学ぶ・平和のとりでを築く・言葉の交流・課題解決に向けて考えるープログラミング的思考・本の世界を広げよう・伝え合うための言葉・学習に用いる言葉・言葉の宝箱・図を使って考えよう）

(3)分冊の考え方

小学部第1学年には、原典教科書をもとにした点字教科書に加えて、点字の触読に習熟するための点字導入教材「点字を学ぼう」を追加している。編集の具体的内容で詳述するが、点字を使用して学ぶ児童（以下「児童」とする。）等の実態に応じて、活用されたい。（4 参考資料 資料1）。

各学年の巻数は、大部による児童の負担を軽減することに配慮して、第1学年を3冊、第2～6学年を4冊に分冊している。第1学年は、点字学習の導入教材を独立した巻立てとし、第1・2巻を原典教科書の上下巻に対応させている。第2～4学年は、第1・2巻が上巻、第3・4巻が下巻をそれぞれ分冊している。第5・6学年は原典が1巻であるので、全4巻に分冊している。分冊箇所については(2)の通りである。

なお、原典教科書ページは、児童への周知及び指導者の便宜を意図し、目次の最後に「墨字の教科書のページは、ページ行に⠠⠠⠠⠠のように書いてあります。」と掲載するとともに、各ページ行の左側に挿入した。

2 編集の具体的方針

編集にあたっては、基本的には原典教科書に大きな変更を加えることなく、点字を習得しかつ常用して学習する児童の障害の特性に応じるため、視覚的な情報が多いため活動として成り立ちにくいものや理解しにくい等の題材及び教材（以下、「教材等」という）については、次の(1)(2)の特性を踏まえ「変更」「差し替え」「追加」「削除」しながら点字化を行う。点字化に際しては、「具体化された事象や事項等を認識するために必要となる正確な情報や知識」「表音文字である点字表記上の特性」などを踏まえ、「主体的で深い学びにつながる活動」に必要な合理的配慮となるようにする。

なお、次の4つの観点について促すために、児童の障害の特性に基づいた点字化に伴う題材等の特質に応じた補足事項について加えて記載する。

- ・知識を相互に関連付けてより深く理解を促すこと

- ・情報を精査して考えが形成できるよう促すこと
- ・問題を見出して解決策を考えるよう促すこと
- ・思いや考えを基に創造したりすることに向かうよう促すこと

(1) 認知の特性

視覚から映像による情報処理は全体の情報を一度で把握することや一部分を詳しく把握すること、全体と部分を比較しながら捉えることが容易である(即時的把握)。一方、言葉(音声の聴取)による情報処理には、一つ一つの情報をつなぎ合わせて理解することから、距離や方向などは、初めから終わりまでの全ての情報を得てから記憶をたどりながら全体像を捉えることとなる(継時的把握)。

このような認知の特性があることから、即時的把握により理解を深める題材等において、継時的把握に必要な情報を補足するとともに、伝える情報は本質的な内容を選び出し、情報を省略したり、図や表等を文章化したり数値化したり、補足の情報を加えたりする必要がある。また、他の保有する感覚を総合的に活用するための配慮が必要となる。さらに、視覚的な美しさや感動など、事物・事象について視覚的な情報の保障とともに経験の積み重ねによる感情的な意味づけがなければ理解が難しい事項についても、視覚以外の保有する感覚を主とした生活に基づいた学習となるよう配慮が必要である。

(2) 文字処理や点字表記上の特性

表音文字である点字の特性に伴う、次のような配慮が必要となる。原典教科書のレイアウトから内容の関係性や順序など文章の流れがわかりやすくなるよう考慮するとともに、情報量の調整や配置の調整などを適宜行う。また、原典教科書は、文字の大きさ・色・字体等により項目の重要度を表す場合や、図形や線等を原典教科書に書き込む場合等があるため、点字表記により理解できるようにする。また、必要に応じて漢字の説明や墨字のかな表記や漢字の説明等を加えるようにする。

また、国語においては点字の習得・習熟そのものが必要となる。点字の習熟のための教材の編集にあたっては、文部科学省著『点字学習指導の手引』(令和5年改訂版)を参考資料としている。

3 編集の具体的内容

(1) 体裁・レイアウト

① 第1学年に、原典教科書にはない「点字導入編 点字を学ぼう」を追加してある。指導にあたっては、個々の児童の実態を十分に把握した上で、点字習熟に向け指導することが大切である。後掲の「4 参考資料資料1」を参照しながら、具体的な指導にあたってほしい。

導入教材として、一マス6点を一つの単位として認識することを意図し、そのうえで、指先の上下動を排除して真横に指をなめらかにすべらせる行たどりを習得するための教材、読むことを楽しむための教材を追加してある。点字を使用して学ぶ児童等の実態に応じて、活用されたい。

また、点字教科書製本の都合上、ページを開けた際に書面が平面とはなりにくくなっている。入門期には、平らで適度な堅さの面に置かれた点字用紙で学ぶことが最も望ましい。対象児童の様子を十分観察しながら、必要に応じて同様の教材を作成したり、行間やマスを空けるなどの工夫及び指導の工夫をしたりすることが必要である。重複障害の児童生徒や中途視覚障害者への点字導入に際しても、同様の工夫をすることが望ましい。

なお、P1～P28までは触読の初期であることに配慮し、上下の行の干渉を避けるために行間を9mmに広げている。

一般的留意事項としては、以下のとおりである。

- ・当初から両手読みの指導を重視する。
- ・行の上に両手指を置き、両手の人差し指を軽く接触させることを基本にする。
- ・指先を立てずに、指先の腹を使う。その際、強く押しつけすぎないように留意する。
- ・指先の腹で一マスの6点を同時に認識し、上下の指の動きをできるだけ排除して真横になめらかに指を移動できるような動きを確立させることを目指す。
- ・行たどり、行替えの動作の指導を大切に、両手の分業へとつなげられるようにする。
- ・点の位置の弁別学習を十分に行い、点字の1マスの枠組みが理解できるようにつとめ、安易に文字としての指導に進まないように留意する。
- ・点字の読み学習をとおして、「あったよ。」「いっしょだね。」「どっちかな。」「これも同じ形だよ。」

などと教師や友達と楽しく会話しながら、言葉も育てていけるような配慮を期待する。

詳しくは、文部科学省発行「点字学習指導の手引（令和5年改訂版）」第4章 触読の学習の実際（P. 87からP.122）を参照いただきたい。

(2) 表記法(全体を通して共通的な表記、変更の仕方等)

- ① 点字表記及びレイアウト等は、『日本点字表記法 2018年版』（日本点字委員会編集・発行）に準じて行った。
- ② 墨字の表記を点字化するにあたっては、点字表記の特性を踏まえて、可能な範囲で対応措置を図った。
- ③ 表・図・グラフ等は、点字表記の可能性と児童の理解度を考慮して、変更や削除を行った。したがって、指導の際には、説明等で補うなど読解を助けるよう配慮する工夫が必要である。2学年～6学年の原典教科書巻末にある「図を使って考えよう」は、児童の学習の実際を考慮して「表にして考えよう」とした。
- ④ 5～6学年冒頭の「この教科書で学習するみなさんへ」に掲載されている「問いをもと」「目標」「ふりかえろう」のマークは削除し、文言は「国語の学びを見わたそう」の同項目の箇所に挿入した。
- ⑤ 教材として添えられている2次元コードは、原則として割愛した。必要に応じて授業で活用する場合には、指導者が原典教科書を用いて補助することが望ましい。

(3) 主な変更について

具体的な変更内容のうち、特記すべきものは以下のとおりである。

① 点字の読み書きに習熟するための教材として、次の教材を加えている。該当の各教材末に「この本で習った点字」と表題をつけて点字表記に関する新出事項を、掲載した。さらに第1学年から第5学年の各巻末には点字ドリルを掲載した（4 参考資料 資料2）。

② 国語の正しい理解を促すために、墨字の仮名文字や漢字に関する教材については、その基礎的な知識となるものを選定して掲載した。ただし、指導にあたっては、墨字の習得がねらいとして優先されることのないよう、点字による学習を第一義として扱ってほしい。

(ア) 3年生上巻末(3-2)に、墨字のひらがなとカタカナの字形の一覧表を掲載した。これは、「机をコの字の形に並べる」など、日常生活のなかで字形をもとに話される語の理解を促進するための教材としてあげたものである。よく似た字形を探したり自分の名前を確認したりするなど、児童の興味や実態に合わせて、楽しく触れ、触ることが負担にならないよう配慮して扱ってほしい。

(イ) 各学年の「漢字の広場」は、該当する漢字部分に第1カギを付けて示し、課題に取り組む際に必要なイラスト部分を言語化して挿入した。しかし、課題の内容を考慮し、説明は必要最小限のものにとどめた。したがって、指導にあたっては課題の意図を踏まえた上で、児童の個々の実態に配慮しつつ工夫をされたい。

(ウ) 「覚えておきたい漢字」は、小学校学年別漢字配当の中から次の基準に沿って92字を選定し、字形も掲載した。2年までの教材で字形が扱われなかったものは、1年2巻、2年2・4巻の巻末に掲載した。

- ・日常生活の中で字形をもとに語られる漢字
- ・部首のもとになる漢字
- ・画数が少なく児童の負担になることのない漢字

(エ) 各教材の欄外及び教材末の漢字については、2学年までは「読み方が新しい漢字」と表題をつけ、例1のように示した。3学年からはさらに「新しく学習する漢字」と「特別な読み方をする言葉」を加え、欄外掲載の語句をもとに、それぞれ例2、例3のように示した。このときの音および訓の掲載順は、巻末の「この本で習う漢字」の掲載順とした。また、漢字の訓を示す場合、送り仮名は第2つなぎ符を用いて示した。

例1 「読み方が新しい漢字」〔原典教科書 第2学年上〕

「おん」 どく（おと）

例2 「新しく学習する漢字」〔原典教科書 第3学年上〕

がく「しゅう」（しゅう なら^三三^三う） 「しゅう」じ ぴあのを 「なら」う。

例3 「特別な読み方をする言葉」〔原典 第3学年上〕

「きょう」（こん いま、 にち ひ か）

(オ) 原典教科書末に記載されている漢字や語句の問題の「答え」は、漢字教材ではないものについては、教材末に記載した。漢字に関する教材については、漢字の知識のための指導が当該単元でねらいとされる指導を超えることのないよう、該当部分に「答え」の部分を入れた文を記載し、問題の指示を変更した。

③ ノートやメモ等の例は、児童自身が実際の学習で筆記できる形式となるように配慮して変更した。（例：原

- ④ 文字の形、漢字の部首等の教材は、児童の理解度を考慮して、変更を加えた上で必要に応じて点線文字で掲載した。ただし、点字で学習する児童にとって漢字は日常的に見るものではなく、漢字の字形学習はねらいとして設定すべきものではないため、必要最小限にとどめた。(例：原典教科書 第5学年 漢字の成り立ち)
- ⑤ 地図は、内容を読み取る上で必要なものに限り、修正を加えた上で、点図で掲載した。
- ⑥ 「右の」「左記の」「上の」「下の」などの表現を、それぞれ「この」「次の」「前の」「後の」などの点字表記の特性に合わせた表現に変更した。
- ⑦ 「注」は原則として、該当ページの欄外に掲載した。ただし、高学年の読み物題材では児童の効率的な学習を期すために、文章末に掲載したものもある。
- ⑧ 記号等の変更は、読解を助ける場合に限って行い、原則として原典教科書どおりとした。ただし、中点等を付した簡条書きについては、触読の特性を踏まえた上で全体の構成を理解しやすくするために、番号を付すなどの変更を行った。児童のイラストに吹き出しのついたものは、発言形式であることがわかりやすいよう、名前を付して第1カギで囲んだ。(例：□□くらのた□□「ぼくも そう 思います。」)
- ⑨ 歴史的仮名遣いのうち、3～6学年まで共通する「季節の言葉」等、古典学習をねらいとしないものはすべて現代仮名遣いで表記した。5・6学年の古典学習教材については、歴史的仮名遣い・現代仮名遣いそれぞれの表記を児童の読みやすさを考慮しながら、全文及び欄外注で表記した。
- ⑩ 表現課題などで字数制限があるものについては、一応の目安として、普通文字200字を点字32マス11行と対応させた。
例 400字(原典教科書)→点字32マス22行(400字)
- ⑪ ローマ字アルファベットの墨字の字形は第3学年上巻(3-2)に掲載した。ただし、墨字の字形の習得がねらいとして優先されることのないよう十分な配慮が必要である。
- ⑫ 編集の具体的な変更箇所・変更事項は以下の表のとおりであるが、大幅な差し替えやレイアウト上の工夫を行った箇所については、「4 参考資料 資料3」に掲載した。なお、この編集資料における変更内容の表記については、1～2年までを、分かち書きも含め、長音符号や仮名遣いなど、点字表記に近い形で表した。

※「点字学習指導の手引き(令和5年改訂版)」文部科学省ホームページ

